

農業で障害者就労支援

調剤薬局経営の「A・A・I」

屋内水耕栽培事業を開始

調剤薬局経営などを手がける一般社団法人「A・A・I」（高松市、砂原英二理事長）は、障害者による室内での野菜の水耕栽培事業に乗り出した。障害者の社会参画と農業の担い手確保を図る「農福連携」の一環で、同市西宝町に開設した就労支援事業所の利用者に作業に従事してもらう。

同法人によると、屋内での水耕栽培事業は、温度や湿度が快適に管理された室内で作業ができるのが特徴。天候に左右される屋外の農業と異なり、障害者が

継続して働きやすい環境を提供できるという。室内型水耕栽培施設での障害者支援事業は四国初。



障害者が葉物野菜の水耕栽培に取り組むスペース＝高松市西宝町

1日に就労継続支援B型事業所「あおぞら」を開設。同事業所の利用者は、同じビルに入居するグループ会社のトリニティ（同市）が運営する栽培スペースで作業に当たる。

栽培スペースでは、約50種類の葉物野菜を育成できる。現在、ミスナやレタスなどの試験栽培を行っており、利用者7人は種まきから収穫、梱包までの作業を担当する。

砂原理事長は「1人でも多くの人が一般就労できると話した。利用者を募集しており、無料体験や見学も可能。問い合わせは同事業所へ087（802）1730」。

